

授業再開の喜び（今、学校では）

5月26・27日の分散登校を経て、6月1日に在校生は始業式と赴任式、新入生には入学式を行いました。例年の入学式よりも簡素化し、出席者も絞り込んで行いましたが、人生の節目としての式を行えましたことに感謝しています。

やはり、生徒あっての学校だと感じたのは、私だけでなく本校の先生方全員の思いでした。生徒のみなさんの朗らかな笑い声や元気なあいさつ、そして輝く笑顔が学校に帰ってくると先生方も表情が和らぎます。

「やっぱり学校っていいな。」と思います。

そうはいいながらも、全寮制で学舎一体となった教育を行う本校において、通常の教育活動を行うためには、まだまだ道半ばといった感じです。

集団感染を未然に防ぐための対策を講じるため、寄宿舍においては5割から7割の生徒を受け入れ、少しずつ受け入れ枠を広げているところです。寄宿舍において何をどのように工夫すれば3密を防げるのか、また生徒自身にも自覚をもってもらいながら、健康と安全を確保していくか、まさに私たち学校の力が問われています。少しでも早く全面開舎に向けて取り組んでいきたいと思っています。

実際、通学に片道2時間30分近くかかっている生徒もいます。この現状をしっかりと受け止めていきたいと思っています。

さて、今回、入学式の話をさせていただきます。入学式では、新入生の皆さんに次のような話をしました。

まず、福岡高等学園の入学選考に自らの意志で挑戦し、見事合格してこの日を迎えたこと。

新しい先生方や、友達との出会いがはじまり、職業教育を重視した授業など、新しい学校と寄宿舍生活がみなさんを待っていること。

第一学年では、卒業後の社会参加や職業的自立に必要な生活習慣と基礎的な能力・態度が育つよう、まずは学校や寄宿舍に慣れること、友達を作ること、「明るく、楽しく、元気に」を合言葉に、自分から進んでやろうという意欲を育てる指導を行うこと。などです。

そして、私達職員は、卒業後に社会を生き抜いていくことができる力、自立するために必要な力を身に付けさせる指導・支援を行っていく上で、一人一人のよさを見出し、伸ばし、広げることが大切になりたいと考えていることを伝えました。

新入生の皆さんが入学式で思ったこと、感じたことを大切にしながら3年間しっかりと学び続けて欲しいと願っています。

校長 牛島 大典